



かさに揺れる雨粒を、かえるが楽しそうに見ている今月号の表紙です。
てるてる坊主が、かわいらしく頬を赤らめています。
テニスと音楽鑑賞が趣味と伺いました。
お友達とテニスやサッカーをするのが大好きな女の子が書いて下さいました。
また、料理が得意という素敵な女の子です。
梅雨明けが、待ち遠しくなる今月号の素敵な表紙です。
院長始めスタッフ一同心より感謝いたします。ありがとうございました。



医療法人 優慶誠会

豊郷たちかわ皮ふ科クリニック*

<仕事の対価>

「あなたにとって仕事の対価とは一体何でしょうか？」と質問された時、解答の一つに「お金（給料）」があると思います。私もそうは思います。実際、社会生活を営むにあたりこれがないと生活そのものが立ち行かなくなるのは当然であるからです。ではあえて、「お金」以外の仕事の対価について考えてはいかがでしょうか。私はこうです。決して綺麗事言っているわけではありません。仕事が私にもたらしてくれるのは「成長とご縁」だと思います。では何が成長するのかというと、私自身が人間的に成長できるのです。以前の“とよ・たち”でも言いましたが、人間は仕事の中でしか成長しないと思っています。

そう考える理由の一つは日本人の場合、最短で15才多くは18~22才程で職に就き以後、少なくとも60~65才位まで健康であればずっと仕事をするからです。その年数は少なくとも40年以上になるでしょう。この間、私達と仕事は切っても切り離せない関係にあるのです。しかし嫌々仕事をしたり対価をお金だけに求める様では人間的に成長することは一切ないと思います。

坂本龍馬はかつて西郷隆盛を次の様に評したとされています。西郷という男は「小さく打てば小さく響き、大きく打てば大きく響く」と。これは、凡人が西郷を見れば大した人物に見えないが、傑物が見れば大人物に見えるということを表した言葉です。実のところこれは、見る人によって同じものを見ているにも拘わらず、その価値が変わるということを示しているのですが、同時に見ている側も逆に西郷に評価され対応（接し方）を変えられているという事なのです。この事は仕事にもあてはまる気がします。つまり見る側が真剣さ・素直さ・情熱・感謝の心で事にあたれば他人には見えない物が見えてきて、人が気付かなかった事に気付けるのではないのでしょうか。しかしそうなるためにはある程度の年数と実行が必要となります。

「蒔かれた所に生えなさい」と言っている人がいます。

「人間到る処青山あり」という故事成語もあります。この2つには深い共通点があります。それは与えられた環境を天命ととらえ、辛抱してその場に骨を埋める覚悟で仕事をする。その姿勢が周囲の信頼信用を得ることになり知らず知らずのうちに自分の天職となるということだと私は理解しています。

そしてこの事は一道に秀でる人に全て共通する事の様に思うと同時に、仕事の対価の一つである人間的成長だと私は思うのです。

もう一つの対価と言えるのは「ご縁」です。

私はクリニック開業後数多くの患者様や著名なドクター、又は各業界の経営者の方々と知り合うことが出来ました。これらの方の中には今であプライベートで交流がある方もいます。又、この人と巡りあえたお蔭でネガティブな自分から脱却することが出来、幸福感が得られたこともありました。私がそうなれたのは、先に挙げた 4 つの精神で仕事に努めることをご教示して頂けたからです。

私にとって仕事は、人間的成長とご縁を頂ける人生そのものであり、そこに私は幸福感を見い出すことが出来るのです。

院長・拝